

問題用紙

(30 分 / 100 点満点)

〈注意事項〉

- ・ 解答目標時間は 30 分です。自分でタイマーをセットして行いましょう。
- ・ 問題用紙は全部で 3 枚あります。
- ・ **サイトを見ず**に取り組みましょう。
- ・ 答えは、別の pdf ファイルにある解答用紙に記入しましょう。
- ・ 漢字で書ける語句は、できるかぎり漢字で書くことに挑戦してみましょう。
- ・ 解き終わったら、解答と解説を見て、答え合わせをしましょう。

制作

No Children, No Future

子どもの権利を考えるサイト

1

子どもの権利の歴史について、下の〈年表〉を参考に、次の問いに答えましょう。

〈年表〉

西暦	世界の歴史	日本の歴史
1762	ルソー『エミール』を著す	
1900	エレン・ケイ『 1 』を著す	
1916		『 1 』日本語訳
1922	イギリス「世界児童憲章」	
1924	国際連盟「ジュネーブ宣言」	
1925		『 2 』発表
1946		「 3 」
1947		児童福祉法制定
1948	国際連合「世界人権宣言」	
	A	
1966	国際人権規約	
	B	
1990	「子どものための世界サミット」開催	
	C	
2002	「国連子ども特別総会」開催	
	D	
2020	新型コロナウイルス パンデミック	

【問1】 〈年表〉内の空欄『 1 』『 2 』『 3 』に入る言葉を下の選択肢から選び、それぞれ記号で答えましょう。ただし、同じ数字の空欄には同じ言葉が入ります。

ア 児童憲章 イ 女工哀史 ウ 日本国憲法 エ 国際児童年 オ 児童の世紀

【問2】 「子どもの権利条約」が採択された出来事は、年表中のA～Dのどこに入るでしょうか。適切なものを記号で答えましょう。

【問3】 20世紀初頭の子どもの権利について述べた文の中に、1つだけ誤りがあります。誤っている部分を、数字で答えましょう。

20世紀初頭では、子どもが大人の①(所有)の対象として扱われるようになり、児童②(労働)児童③(売買)が流行しました。そんな中で、「子どもの④(利益)」という考え方が生まれました。

【問4】 次の説明と関連の深い〈年表〉内の出来事を、以下の選択肢の中から選んで、それぞれ記号で答えましょう。

- (1) 人権の国際的な保護を定めた条約です。
- (2) 「子どもには健康が保障され、それが脅かされた時には救護されなくてはならない…」という内容の主張が書かれています。
- (3) 「達成すべき共通の基準」として、法のもとの平等、身体的安全、思想・良心・宗教の自由、表現の自由、集会・結社の自由、生存権などが規定されています。
- (4) 国際連盟による最初の子どもの権利宣言です。
- (5) 子どものために2000年までに達成すべき目標が定められました。

ア 国際人権規約 イ 「ジュネーブ宣言」 ウ 「世界児童憲章」
エ 「世界人権宣言」 オ 「子どものための世界サミット」

【問5】 「子どもの権利条約」について簡単に説明してみましょう。

2 子どもの権利条約について、次の問いに答えましょう。

【問】 次の条文と関連の深い条約の題名を、次の選択肢の中から記号で答えましょう。

- (1) この条約の適用上、児童とは、18歳未満のすべての者をいう。ただし、当該児童で、その者に適用される法律によりより早く成年に達したものを除く。
- (2) 締約国は、適当かつ積極的な方法でこの条約の原則及び規定を成人及び児童のいずれにも広く知らせることを約束する。
- (3) いかなる児童も、その私生活、家族、住居若しくは通信に対して恣意的に若しくは不法に干渉され又は名誉及び信用を不法に攻撃されない。
- (4) 締約国は、教育についての児童の権利を認めるものとし、この権利を漸進的にかつ機会の平等を基礎として達成するため、特に、…

ア 子どもの定義 イ 条約の広報 ウ 教育を受ける権利 エ プライバシー・名誉の保護

子どもの権利の現状と、その改善策について次の問いに答えましょう。

【問1】 次の説明と関連の深い、子どもの権利の現状に関する語句を、以下の選択肢の中から選んで、それぞれ記号で答えましょう。

- (1) 家庭内で子どもに対して暴力を振るったり、心理的なストレスを負わせること。
- (2) 子どもを懲らしめるために、肉体的な苦痛を伴う罰を与えること。
- (3) 保護者のいない児童や、保護者が養育するのに適していないと判断された児童、また養育が困難な家庭に子どもの権利を保障できるような公的支援を提供する制度。
- (4) 病気や障がいのために家庭生活を満足に送れない親や家族の世話をしていたり、面倒を見ている子どもたちのこと。
- (5) 主に貧富の差などによって、子どもたちが受ける教育に格差が発生してしまうこと。
- (6) 子どもの育つ環境が貧しいことを指します。

ア 虐待 イ 体罰 ウ 社会的養護 エ ヤングケアラー オ 教育格差 カ 貧困

【問2】 学校で起きている体罰の現状について述べた文の中に、1つだけ誤りがあります。誤っている部分を、数字で答えましょう。

体罰は、①(学校教育法)第11条によって禁止されていますが、一方で教師の②(校則違反)については認めています。体罰は③(精神的・身体的)に悪影響で、④(いじめ)などのトラブルにつながる恐れもあります。

【問3】 次の文で述べられている内容が正しければ解答用紙に○を、間違っていれば以下の(例)のように修正をしましょう。

(例) 貧困の連鎖を断ち切るには、教育関係の予算増大が必要である。

答え：教育関係 → 育児関係

- (1) 「教育の質の格差」の例には、塾や予備校に通えるかどうかがある。
- (2) ヤングケアラーの認知度は高いものの、まだまだ問題自体の改善には至っていない。
- (3) ヤングケアラーの対処法として、カウンセリングが有効である。
- (4) 児童虐待は減少傾向にある。
- (5) 児童虐待の重要なポイントは、どれだけ第三者が気づいて通告できるかということである。
- (6) ブラック校則は、身体的負荷だけでなく、心理的にも負荷がかかる。
- (7) 体罰は認められていない。
- (8) 体罰の影響は、それを見聞きした生徒にも及ぶ。
- (9) 里親や養子縁組などのことを、「施設養護」と呼ぶ。

【問4】 「絶対的貧困」と「相対的貧困」の違いについて説明してみましょう。